

WEEKLY SIGNAL

平成27年6月26日(金) 1280号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/29(月)	6/30(火)	7/1(水)	7/2(木)	7/3(金)
無担保O/N			0.030%	0.125%	
銀行券	△700	ト ン	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	△100	+2,000	△2,000	△30,000	+2,000
資金需給	不800	余2,000	不2,000	不30,000	余2,000
主な要因				法人税・消費税・保険揚げ	
オペ期日	CP等買入 △400	共通担保(全店) △7,600			共通担保(全店) △3,900
オペスタート	ETF買入 +100	共通担保(全店) +700 国債買入 +11,600 短国買入 +10,000 CP等買入 +4,000			
(日本)	鉱工業生産指数(5月)	毎月勤労統計(5月) 住宅着工統計(5月)	企業短期経済観測調査 (6月調査)	対外対内証券売買(前週分) マネタリーベース(6月) 企業短期経済観測調査 (6月調査全容、 「企業の物価見通し」概要) 営業毎旬報告(6月30日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	
(海外)	米 中古住宅販売成約指数 (5月) 欧 ユーロ圏景況感指数(6月)	米 S&P/ケース・シラー住宅価格 指数(4月) 米 シカゴ製造業景況指数 (6月) 米 消費者信頼感指数(6月) 欧 ユーロ圏失業率(5月) 欧 ユーロ圏CPI(6月) ギリシャ IMFへの15億ユーロの 支払い期日	米 ADP雇用統計(6月) 米 ISM製造業景況指数(6月)	米 雇用統計(6月) 米 週間新規失業保険申請 件数(6月27日終了週)	米 独立記念日の振替休日

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.075 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は週初が国債償還日であったため、先週末から約2兆円増加の225兆円台から始まり、その後は国債・国庫短期証券買入オペ等の要因で増加し、週末には228兆5,100億円となった。無担保コールON物は24日に一部試し取りの動きから0.12%台の出合いが散見されたものの、概ね0.07~0.077%で取引された。加重平均金利は、24日に0.077%まで上昇したが、その他の日は0.073~0.074%で推移した。ターム物は期内・期越え物ともに目立った動きは見られなかった。26日に30日スタートの国庫短期証券買入オペが前回分(22日オファー、オファー額1兆円、応札額1兆7,811億円)と同金額の1兆円で実施され、

応札額は前回から約7,500億円増加の2兆5,335億円となった。また、末越えの共通担保オペ(26日オファー、6/30-10/9、オファー額1兆5,000億円)の応札額は733億円と低調な結果となった。来週の予定は日銀短観(7月1日)、ギリシャのIMFへの15億ユーロ支払い期日(6月30日)、米雇用統計(7月2日)などが挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.080 ~ 0.090
TDB 3M	△0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.070 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約19,000億円で、期落ち額約24,700億円(金融機関・ABCP除く)を大きく下回った。有利子負債の削減の動きから、月末単日では1兆円近い期落ち超となった。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%前半~0.100%台後半で推移した。

現先レートの中心は、0.070%~0.100%程度で推移した。

来週の期落ち額は約2,700億円と少額で、発行も閑散となりそう。

<TDB>

25日に国庫短期証券3M第541回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0000%(前回債0.0019%)、平均落札レートは△0.0012%(前回債0.0000%)と前回債から利回りは若干低下した。セカンダリーは3Mで0.000%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来月2日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初短国買入・国債買入オペが合計1兆7800億円オファーされ、先週末対比0.02%程度低下の0.06%近辺の出合から始まり、週央まで概ね0.05~0.06%のレンジで推移した。TDB3Mの発行日となる29日受渡では、S/N時点では0.06%近辺の出合にとどまったものの、T/N時点では0.075%近辺まで上昇。S/Nが6月末受渡となる26日には、期末要因に加え短国買入オペが1兆円オファーされたこともあり、ネガティブレートでの出合も見られるなどタイト化した。SCは10年337・338回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。10年339回債は5年超10年以下の買入オペがオファーされた26日受渡以降タイト化し、O/N物で一部△1.0%の出合も見られた。期末初受渡となる週末には、多くの銘柄がO/N物でネガティブレートでの出合となった。2年債は351・352・353回債、5年債は123回債、10年債は323・325・329・337・338・339回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。